

ベネズエラ：進撃するクーデター

ラ・ホルナダ紙社説

2024年7月30日

ベネズエラは、1998年のボリバル革命の勝利までこの国を支配していた、ワシントンから指示された寡頭政治体制の復活を目指すクーデターの脅威に再び包囲されている。数時間前まで民主主義の尊重と国民和解を訴えていた人々や組織は、自分たちの候補者がニコラス・マドゥロ大統領に投票で敗れたことを知るやいなや、仮面を脱いだ。

ベネズエラの立憲政府を退陣させ、傀儡政権を押し付けようとする現在進行中の試みは、ベネズエラが2002年、2014年、2017年、2019年にすでに被ったものと同様の脚本に従っており、ラテンアメリカの他の地域でも同じことが繰り返されている：大手企業メディアは、不正の告発をあたかも証明された事実であるかのように伝え、ベネズエラの合法性を無視し、極右ショック集団を民主主義の英雄的闘士として描いている。明らかに保守的なバイアスを持つ多国間組織は、結果に疑念を投げかけ、野党が煽った暴力行為を正当化している。

藁人形候補のエドムンド・ゴンサレスとベネズエラ右派の真のリーダー、マリア・コリーナ・マチャドは、ミラフローレス宮殿と、それとともに地球上で最大の石油埋蔵量を乗っ取るためにホワイトハウスとCIAによって最近選ばれた人物にすぎないことを忘れてはならない。ちょうど2019年、当時の国会議員ファン・グアイドーは、西側諸国が並行政権のオペレッタを上演するのに役立った愚か者だった。

この策略によって、ワシントンとその同盟国はカラカスの海外資産を盗み出し、食料や医薬品を含むあらゆる物資の入手を妨げる殺人的封鎖を強化した。今日、歴史のゴミ箱に追いやられたグアイドーは、自国に計り知れない損害を与え、帝国主義の侵略のために普通の生活を送ることができない何百万人もの同胞の飢

え、病気、悲惨さに直接責任を負っている。

冷戦の最悪の時代や、ワシントンが西半球の左翼指導者や過激派の大量虐殺を画策したコンドル計画のように、多くのラテンアメリカ諸国政府がベネズエラに対する猛攻撃に加わり、クーデター計画者を支援した。チリのガブリエル・ボリッチ大統領のような恥ずべきエピソードもある。ボリッチ大統領は、新自由主義、ワシントンと連携するエリート、独裁政権下で書かれた憲法によってチリの名目上の民主主義に定着したピノチェッティズムへの嫌悪感から、活発な社会運動によって政権を握った。

欧米列強とその同盟メディアはベネズエラから手を引き、制度的・民主的なチャンネルを通じてベネズエラ国民に自分たちの意見の相違を解決させることが不可欠だ。資金提供や助言、外部メディアの報道がなければ、国内の右派は、投票によって打ち負かすことができなかつたチャベス主義打倒を何度も試みる勇気はないだろう。(了)

【翻訳チェック 新藤通弘】